

論文番号 164

担 当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題 名 (原題/訳)

Metadoxine in acute alcohol intoxication: a double-blind, randomized, placebo-controlled study.

急性アルコール中毒におけるメタドキシンの効果: 二重盲検、無作為化、プラセボ対照試験
執筆者

Shpilenny LS, Muzychenko AP, Gasbarrini G, Addolorato G.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol Clin Exp Res 26(3):340-346 (2002)

キーワード

急性アルコール中毒、メタドキシンの、臨床試験

要 旨

背 景:

急性アルコール中毒に対するメタドキシンの効果に関しては、興味深いのが、しかし、予備的な臨床試験の結果しか得られていない。本研究は急性アルコール中毒患者の治療におけるメタドキシンの効果について検討することを目的に計画された。

方法: 二重盲検、無作為化、多施設、プラセボ対照試験が急性アルコール中毒患者 58 人で行われた。患者は 900 mg のメタドキシンの(n=29)かプラセボ (n=29)を静注された。被験者は処置後 0.5、1、2、3、6、9、12 時間で臨床的ならびに生化学的な評価を受けた。

結 果:

メタドキシンの血中エタノールの消失半減期を低下し、血中からのエタノール排除の速度を速めた。血中エタノール消失半減期へのメタドキシンの効果は、中毒からの回復開始が早まる効果を伴っていた。メタドキシンの投与群での回復開始の中間時間は 0.95 時間で、対照群では 2.34 時間であった。血中アルコール濃度に与えるメタドキシンの効果は、アルコール中毒症状の改善効果と並行していた。

結 論:

急性エタノール中毒の患者で、メタドキシンの血中からのエタノール消失を促進し、このことが中毒からの速い回復を導き、中毒症状を改善した。メタドキシンの急性アルコール中毒の治療で有効と考えられる。